

(様式第 10)

国際研セン発 291003004 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター
理事長 國土 典宏 (印)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
氏 名	國土 典宏

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院

3 所在の場所

〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1	電話(03)3202-7181
-----------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	④腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科	⑪リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
(1)呼吸器外科 (2)消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 (6)心臓血管外科 7内分泌外科 (8)小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)整形外科 (4)神経外科 (5)皮膚科 (6)泌尿器科 7産婦人科 (8)産科 (9)婦人科 (10)眼科 (11)耳鼻咽喉科 12放射線科 (13)放射線診断科 (14)放射線治療科 (15)麻酔科 (16)救急科
--

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

糖尿病内科、内分泌代謝内科、心療内科、新生児内科、内視鏡内科、人工透析内科、緩和ケア内科、ペインクリニック内科、形成外科、頭頸部外科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、病理診断科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38床	4床	40床	床	699床	781床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	178人	162.0人	340.0人	看護補助者	42.6人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	5人	8.80人	13.80人	理学療法士	15.0人	臨床検査技師	55.5人
薬剤師	46人	10.8人	56.8人	作業療法士	6.0人	衛生検査技師	0.0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	5.8人	その他	0.0人
助産師	30人	0人	30.0人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看護師	774人	11.6人	785.6人	臨床工学士	11.0人	医療社会事業従事者	15.0人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0.0人	その他の技術員	13.6人
歯科衛生士	2人	0.8人	2.8人	歯科技工士	1.0人	事務職員	90.5人
管理栄養士	7人	3.2人	10.2人	診療放射線技師	47.0人	その他の職員	39.1人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	35人	眼科専門医	2人
外科専門医	21人	耳鼻咽喉科専門医	5人
精神科専門医	4人	放射線科専門医	8人
小児科専門医	13人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	3人
泌尿器科専門医	4人	麻酔科専門医	4人
産婦人科専門医	8人	救急科専門医	11人
		合 計	129人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(病院長 大西 真) 任命年月日 平成28年4月1日

前勤務先(東京大学医学部附属病院)にて リスク分析小委員会(10年間以上) リスクマネジメント委員会委員長(2年間) 医療安全担当副院長(1年間) 当院の副院長時代におけるリスクマネジメント委員会メンバー(2年間)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	642.8人	1.9人	644.7人
1日当たり平均外来患者数	1778.7人	74.6人	1853.3人
1日当たり平均調剤数	1377剤		
必要医師数	169.3人		
必要歯科医師数	1.2人		
必要薬剤師数	21.5人		
必要(准)看護師数	384.1人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	206.34m ²	R C	病床数	10床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	420.59m ²		病床数	30床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	127.45m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	250.41m ²		(主な設備) クリオスタット、全自動染色システム			
細菌検査室	295.86m ²		(主な設備) 感染症対策解剖台、遺体冷蔵庫、フロアスケール			
病理検査室	134.67m ²		(主な設備) データ解析用PC			
病理解剖室	304.26m ²		(主な設備) 解剖台			
研究室	277.06m ²		(主な設備) 研究用PC			
講義室	368.83m ²		室数	1室	収容定員	600人
図書室	131.96m ²		室数	1室	蔵書数	35000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	94.1%	逆紹介率	64.0%
算出根拠	A：紹介患者の数			13,554人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			15,001人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			8,509人
	D：初診の患者の数			23,436人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
長田 理	公益財団法人がん研究会がん研有明病院院長補佐	○	がん研有明病院の麻酔科で豊富な診療経験を持ち、併せて院長補佐として病院経営・管理に関して十分な経験と実績を持つのみならず、医療安全管理部部長として医療安全の豊富な知識と長年にわたる経験を持つことから適任とした。	無	1
細川 大輔	細川大輔法律事務所弁護士		弁護士として多くの医療事故に関わっており、豊富な経験に基づく十分な実績がある。併せて医療問題弁護団の研修責任者を務めた経験から医療過誤事件の処理に必要な専門知識が豊富なことから適任とした	無	1
出口 桂太郎	(株)ユーラシア旅行社 取締役管理部長		ユーラシア旅行社で取締役管理部長として企業経営・管理に関して十分な知識を持つのみならず、併せて公認会計士として幅広い見識を持ち多大な人望を得ていることから適任とした	無	2
難波 吉雄	国立国際医療研究センター 企画戦略局長			有	3
小須田 幸夫	国立国際医療研究センター 統括事務部長			有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無
公表の方法 HP掲載		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断。	17人
腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法。	34人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法。	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
三次元形状解析による体表の形態的診断。	25人
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定。	2人
前眼部三次元画像解析。	40人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	0	56	ベーチェット病	32
2	筋萎縮性側索硬化症	7	57	特発性拡張型心筋症	30
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	16
6	パーキンソン病	73	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7	大脳皮質基底核変性症	1	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	29
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	25	66	IgA腎症	8
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	8
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	9	68	黄色靱帯骨化症	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	2	69	後縦靱帯骨化症	7
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	25
17	多系統萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	6	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	0
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	8	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	17
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	64
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	31
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	4
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	9
34	神経線維腫症	2	89	リンパ脈管筋腫症	0
35	天疱瘡	11	90	網膜色素変性症	8
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	0	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	20
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	65
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	143
43	顕微鏡的多発血管炎	24	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	8	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	23	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	222	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	82	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	62	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	31	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	46	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	15	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名			疾患名	
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		疾患名			
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	4
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	16	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	3	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾 患 名				疾 患 名	
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料(一般7:1、結核10:1、精神7:1)	感染防止対策加算1
救命救急入院料1 小児加算	(感染防止対策地域連係加算)
特定集中治療室管理料1	患者サポート体制充実加算
ハイケアユニット入院医療管理料1	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	ハイリスク妊娠管理加算
新生児特定集中治療室管理料1	ハイリスク分娩管理加算
新生児治療回復室入院医療管理料	データ提出加算 データ提出加算2 イ
小児入院医療管理料2	退院支援加算1 地域連携診療計画加算
一類感染症患者入院医療管理料	医師事務作業補助体制加算1 75:1
救急医療管理加算	呼吸ケアチーム加算
超急性期脳卒中加算	後発医薬品使用体制加算1
妊産婦緊急搬送入院加算	病棟薬剤業務実施加算1、2
診療録管理体制加算1	
急性期看護補助体制加算	
看護職員夜間配置12対1配置加算2	
療養環境加算	
重症者等療養環境特別加算	
無菌治療室管理加算1、2	
緩和ケア診療加算	
精神科身体合併症管理加算	
精神疾患診療体制加算	
精神科急性期医師配置加算	
精神科リエゾンチーム加算	
認知症ケア加算1	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
高度難聴指導管理料	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
糖尿病合併症管理料	がん患者リハビリテーション料
がん性疼痛緩和指導管理料	集団コミュニケーション療法料
がん患者指導管理料	歯科口腔リハビリテーション料2
外来緩和ケア管理料	医療保護入院等診療料
移植後患者指導管理料	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
糖尿病透析予防指導管理料	CAD/CAM冠
地域連携小児夜間・休日診療料2	歯科技工加算
外来放射線照射診療料	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
ニコチン依存症管理料	乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算算定の場合)
肝炎インターフェロン治療計画料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
薬剤管理指導料	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
医療機器安全管理料1、2、(歯科)	経皮的中隔心筋焼灼術
歯科治療総合医療管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
在宅血液透析指導管理料	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
持続血糖測定器加算	腹腔鏡下肝切除術
遺伝学的検査	生体部分肝移植術
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
国際標準検査管理加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
遺伝カウンセリング加算	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
ヘッドアップティルト試験	手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
人工膵臓検査	輸血管理料Ⅰ
皮下連続式グルコース測定	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
神経学的検査	歯周組織再生誘導手術
ロービジョン検査判断料	麻酔管理料(Ⅱ)
小児食物アレルギー負荷検査	放射線治療専任加算
内服・点滴誘発試験	外来放射線治療加算
センチネルリンパ節生検(片側)	高エネルギー放射線治療
CT透視下気管支鏡検査加算	画像誘導放射線治療加算(IGRT)
画像診断管理加算1、2	体外照射呼吸性移動対策加算
ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	定位放射線治療
CT撮影及びMRI撮影	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
外来化学療法加算1	病理診断管理加算
無菌製剤処理料	口腔病理診断管理加算
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	保険医療機関間の連携による病理診断
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	12回/月
剖 検 の 状 況	剖検症例数 65 例 / 剖検率 14.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
環境因子の変化に伴う疾病構造変化モニタリングと中長期環境モニタリングおよび暴露調査結果を用いた環境がヒトへ与える影響の解析を行う病院コホートを利用したデータマイニングシステムの研究事業	星野隆之	精神科	14,264,999	補 委	厚生労働省
血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植適応に関する研究	塚田訓久	ACC	500,000	補 委	厚生労働省
HIV検査受検勧奨に関する研究	塚田訓久	ACC	1,000,000	補 委	厚生労働省
非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究	潟永博之	ACC	8,500,000	補 委	厚生労働省
HIV感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立	田中瑞恵	小児科	3,100,000	補 委	厚生労働省
サトマイト胎芽病患者の健康、生活実態の生活実態の諸問題に関する研究	日ノ下文彦	腎臓内科	15,500,000	補 委	厚生労働省
HIV感染症およびその合併症の課題を克服する研究	日ノ下文彦	腎臓内科	1,500,000	補 委	厚生労働省
HIV感染症の合併症に関する研究	岡慎一	ACC	44,834,000	補 委	厚生労働省
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	岡慎一	ACC	9,500,000	補 委	厚生労働省
我が国のウイルス性肝炎対策に資する医療経済評価に関する研究	正木尚彦	消化器内科	600,000	補 委	厚生労働省
肝疾患患者を対象とした相談支援システムの構築、運用、評価に関する研究	正木尚彦	消化器内科	1,000,000	補 委	厚生労働省
中東呼吸器症候群(MERS)等の新興再興呼吸器感染症への臨床対応法開発のための研究	大曲貴夫	DCC	12,000,000	補 委	厚生労働省

医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究	大曲貴夫	DCC	3,260,000	補 委	厚生労働省
新興・再興感染症のリスク評価と危機管理機能の確保に関する研究	大曲貴夫	DCC	500,000	補 委	厚生労働省
一類感染症の患者発生時に備えた治療・診断・感染管理等に関する研究	加藤康幸	DCC	4,000,000	補 委	厚生労働省
非AIDS関連悪性腫瘍増加時代における消化管腫瘍の研究-内視鏡を用いた早期発見プログラム確立-	永田尚義	消化器内科	3,898,000	補 委	厚生労働省
胃静脈瘤に対するモノエタノールアミノレイン酸塩を使用したバルーン閉塞下逆行性静脈閉塞に関する医師主導治験の調整・管理に関する研究 治験B	田嶋強	放射線診断科	1,046,682	補 委	AMED
治験の実施に関する研究 [シクロスポリン] 治験C	大熊喜彰	小児科	1,050,000	補 委	AMED
高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究	高崎仁	呼吸器内科	1,500,000	補 委	AMED
わが国における熱帯病・寄生虫症の最適な診断治療体制の構築(国内未承認薬の輸入・管理・供給)	加藤康幸	DCC	5,500,000	補 委	AMED
高齢者の小細胞肺癌に対する新たな標準治療の確立に関する研究	竹田雄一郎	呼吸器内科	400,000	補 委	AMED
適正な抗HIV療法開発のための研究	潟永博之	ACC	13,500,000	補 委	AMED
国内流行HIV及びその薬剤耐性株の長期的動向把握に関する研究	潟永博之	ACC	900,000	補 委	AMED
多剤耐性HIV変異株に強力で高い中枢神経系透過性を有する新規抗HIV薬の開発	岡慎一	ACC	2,600,000	補 委	AMED
「ベトナムにおける感染症制御研究・開発プロジェクト」(ベトナムにおける薬剤耐性菌研究、ベトナムにおけるエイズ研究、ベトナムで実装可能な薬剤耐性菌対策を見据えた病原体の全ゲノム疫学解析)	岡慎一	ACC	57,500,000	補 委	AMED

カポジ肉腫関連疾患の発症機構の解明と予防および治療法に関する研究	照屋勝治	ACC	1,300,000	補 委	AMED
ART早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	照屋勝治	ACC	4,500,000	補 委	AMED
原虫・寄生虫に対する監視・制御に関する研究	塚田訓久	ACC	2,400,000	補 委	AMED
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する大規模な臨床情報収集に関する基盤的研究	梶尾裕	糖尿病内分泌代謝科	56,110,000	補 委	AMED
「抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療」に係る医師主導治験実施	小早川雅男	消化器内科	1,300,000	補 委	AMED
エイズ治療を目指したHIV免疫の研究	西島健	ACC	2,470,000	補 委	AMED
日本人に最適化されたエイズ関連悪性リンパ腫の包括的医療体制の確立	萩原将太郎	血液内科	845,000	補 委	AMED
国立国際医療研究センターにおける利活用基盤への接続および診療録直結型全国糖尿病データベースにおける利活用基盤の利用に関する研究	美代賢吾	医療情報管理部門	8,800,000	補 委	AMED
食-腸-医をつなぐ生活習慣病の新規メカニズムの解明と腸内細菌叢やその代謝産物に着目した病態制御法の開発	井上博睦	人間ドックセンター	2,600,000	補 委	AMED
食-腸-カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の臨床疫学的検討	早川佳代子	DCC	1,560,000	補 委	日本学術振興会
血管系IVRにおける適応と治療効果の定量的評価法の確立	野口智幸	放射線診断科	65,000	補 委	日本学術振興会
微細脳構造変化と脳機能障害に基づく認知症の高精細臨床的サブタイプ評価法の確立	野口智幸	放射線診断科	1,456,000	補 委	日本学術振興会
Assessment of HDL levels and Risk of a First Myocardial Infarction Among Bangladeshi population: A comparison with the data of Japanese population	岡崎修	循環器内科	1,365,000	補 委	日本学術振興会

食道手術前補助療法の奏効性に関するエピゲノム異常	山田和彦	外科	780,000	補委	日本学術振興会
ベトナムでのHIV感染者コホートを用いた治療・感染予防戦略研究	岡慎一	ACC	1,950,000	補委	日本学術振興会
カロリー制限に着目した声のアンチエイジングに関する分子生物学的研究	山内彰人	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	日本学術振興会
調音運動の時間パタン分析に基づく音声言語に内在する時間構造の解明	山内彰人	耳鼻咽喉科	195,000	補委	日本学術振興会
生体メカニズムに基づく声質の音声学的分類	山内彰人	耳鼻咽喉科	325,000	補委	日本学術振興会
モバイルヘルス技術を用いたメニエール病の時空間的病態解析	関根達朗	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	日本学術振興会
アフリカでの皮膚症状を有する「顧みられない熱帯病」の疫学的調査と新規疾病対策構築	四津里英	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
川崎病の病態を制御する細胞外マトリックス分子の機能解明	大熊喜彰	小児科	390,000	補委	日本学術振興会
アジア・アフリカの開発途上国におけるウイルス肝炎対策に関する実態調査	正木尚彦	消化器内科	760,000	補委	日本学術振興会

計 301,674,681

計47件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	IkedaN.,Hara,H.,Hiroi,Y.他	循環器内科	Impact of serum 1,5-anhydro-d-glucitol level on prediction of major adverse cardiac and cerebrovascular events in non-diabetic patients	Atherosclerosis 2016 Oct 253 1 6	Original Article
2	Tsuchiya,K.,Hayashida,T.,Hamada,A.他	エイズ治療・研究開発センター	Brief Report: High Peak Level of Plasma Raltegravir Concentration in Patients With ABCB1 and ABCG2 Genetic Variants	Journal of acquired immune deficiency syndromes (1999) 2016 May 72 11 14	Original Article
3	Matono,T.,Kato,Y.,Morita,M.他	国際感染症センター	Case Series of Imported Enteric Fever at a Referral Center in Tokyo, Japan: Antibiotic Susceptibility and Risk Factors for Relapse	The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene 2016 Jul 95 19 25	Original Article
4	Watanabe,K.,Petri,W. A., Jr	エイズ治療・研究開発センター	Environmental Enteropathy: Elusive but Significant Subclinical Abnormalities in Developing Countries	EBioMedicine 2016 Aug 10 25 32	Original Article
5	Ishikane,M.,Arima,Y.,Toda,I.他	国際感染症センター	Responding to the syphilis outbreak in Japan: piloting a questionnaire to evaluate potential risk factors for incident syphilis infection among men	Western Pacific surveillance and response journal : WPSAR 2016 Jul 7 36 39	Original Article
6	Hoji,M.,Shirai,T.,Hirashima,J.他	呼吸器内科	Comparison of the clinical effects of combined salmeterol/fluticasone delivered by dry powder or pressurized metered dose inhaler	Pulmonary pharmacology & therapeutics 2016 Apr 37 43 48	Original Article
7	IkedaN.,Kubota,S.,Okazaki,T.他	循環器内科	Comparison of intravascular optical frequency domain imaging versus intravascular ultrasound during balloon pulmonary angioplasty in patients with	Catheterization and cardiovascular interventions : official journal of the Society for Cardiac Angiography & 2016 Jun 87 68 74	Original Article
8	Sasaki,E.,Shibata,M.,Kato,A.他	腎臓内科	An adult case of severe steroid-resistant Henoch-Schönlein purpura nephritis treated with intravenous cyclophosphamide and tonsillectomy	CEN case reports 2016 Nov 5 212 218	Original Article
9	Kinai,E.,Kato,S.,Hosokawa,S.他	エイズ治療・研究開発センター	High Plasma Concentrations of Zidovudine (AZT) Do Not Parallel Intracellular Concentrations of AZT-Triphosphates in Infants During Prevention of	Journal of acquired immune deficiency syndromes (1999) 2016 Jul 72 246 253	Original Article
10	Kobayashi,T.,Watanabe,K.,Yano,H.他	エイズ治療・研究開発センター	Underestimated Amoebic Appendicitis among HIV-1-Infected Individuals in Japan	Journal of clinical microbiology 2016 Dec 55 313 320	Original Article
11	Noguchi,T.	放射線診療部門	A Technical Perspective for Understanding Quantitative Arterial Spin-Labeling MR Imaging Using Continuous ASL	Polish journal of radiology 2016 Jul 81 317 321	Original Article
12	Noguchi,T.,Yakushiji,Y.,Nishihara,M.他	放射線診療部門	Arterial Spin-labeling in Central Nervous System Infection	Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of 2016 Oct 15 386 394	Original Article
13	Matsui,M.,Yamanaka,J.,Shichino,H.他	小児科	FDG-PET/CT for Detection of Extramedullary Disease in 2 Pediatric Patients With AML	Journal of pediatric hematology/oncology 2016 Jul 38 398 401	Original Article
14	Kameyama,M.,Murakami,K.,Jinzaki,M.	放射線核医学科	Optimal HMPAO alpha value for Lassen's correction algorithm obscured by statistical noise	Annals of Nuclear Medicine 2016 Jul 30 445 449	Original Article
15	Sato,K.,Hida,A.,Kameyama,M.他	放射線核医学科	Reduced 123I Ioflupane Binding in Bilateral Diabetic Chorea: Findings With 18F FDG PET, 99mTc ECD SPECT, and 123I MIBG Scintigraphy	Clinical nuclear medicine 2016 Jun 41 481 482	Original Article
16	Hagiwara,A.,Kushimoto,S.,Kato,H.他	救命救急センター	Can Early Aggressive Administration of Fresh Frozen Plasma Improve Outcomes in Patients with Severe Blunt Trauma?—A Report by the Japanese	Shock (Augusta, Ga.) 2016 May 45 495 501	Original Article
17	Katanami,Y.,Kutsuna,S.,Morita,M.他	国際感染症センター	Six Cases of Paratyphoid Fever Due to Salmonella Paratyphi A in Travelers Returning from Myanmar Between July 2014 and August 2015	The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene 2016 Sep 95 571 573	Original Article
18	Yanagawa,Y.,Nagata,N.,Watanabe,K.他	エイズ治療・研究開発センター	Increases in Entamoeba histolytica Antibody-Positive Rates in Human Immunodeficiency Virus-Infected and Noninfected Patients in Japan: A 10-	The American Journal of Tropical Medicine and Hygiene 2016 Sep 95 604 609	Original Article
19	Tsuboi,M.,Nishijima,T.,Yashiro,S.他	エイズ治療・研究開発センター	Prognosis of ocular syphilis in patients infected with HIV in the antiretroviral therapy era	Sexually transmitted infections 2016 Dec 92 605 610	Original Article
20	Tsujimoto,T.,Imai,K.,Kanda,S.他	糖尿病病内分泌代謝科	Sweet taste disorder and vascular complications in patients with abnormal glucose tolerance	International journal of cardiology 2016 Oct 221 637 641	Original Article
21	Tsujimoto,T.,Yamamoto-Honda,R.,Kajio,H.他	糖尿病病内分泌代謝科	Accelerated decline of renal function in type 2 diabetes following severe hypoglycemia	Journal of diabetes and its complications 2016 May 30 681 685	Original Article
22	Endo,A.,Shiraishi,A.,Otomo,Y.他	救命救急センター	Development of Novel Criteria of the "Lethal Triad" as an Indicator of Decision Making in Current Trauma Care: A Retrospective Multicenter	Critical Care Medicine 2016 Sep 44 797 803	Original Article
23	Takahashi,N.,Tsujimoto,T.,Inoue,K.他	糖尿病病内分泌代謝科	Improvement of glycemic control without severe hypoglycemia in a type 1 diabetes patient undergoing hemodialysis after a change from insulin glargine to	Journal of diabetes investigation 2016 Sep 7 805 806	Letter
24	Yanase,M.,Murata,K.,Mikami,S.他	消化器内科	Hepatitis B virus vaccination-related seroprevalence among health-care personnel in a Japanese tertiary medical center	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology 2016 Dec 46 1330 1337	Original Article
25	Cho,H.,Nagata,N.,Shimbo,T.他	消化器内科	Recurrence and prognosis of patients emergently hospitalized for acute esophageal variceal bleeding: A long-term cohort study	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology 2016 Dec 46 1338 1346	Original Article
26	Tsujimoto,T.,Kajio,H.,Sugiyama,T.	糖尿病病内分泌代謝科	Risks for Cardiovascular and Cardiac Deaths in Nonobese Patients With Diabetes and Coronary Heart Disease	Mayo Clinic proceedings 2016 Nov 91 1545 1554	Original Article
27	Nishijima,T.,Kurosawa,T.,Tanaka,N.他	エイズ治療・研究開発センター	Urinary beta2 microglobulin can predict tenofovir disoproxil fumarate-related renal dysfunction in HIV-1-infected patients who initiate tenofovir	AIDS (London, England) 2016 Jun 30 1563 1571	Original Article
28	Chino,H.,Ikura,M.,Saito,N.他	呼吸器内科	Subinterlobular Pleural Location Is a Risk Factor for Pneumothorax After Bronchoscopy	Respiratory care 2016 Dec 61 1664 1670	Original Article
29	Fukuda,S.,Nakamura,Y.,Egi,K.他	心臓血管外科	Comparison of direct effects of clinically available vasodilators: nitroglycerin, nifedipine, cilnidipine and diltiazem, on human skeletonized internal mammary	Heart and vessels 2016 Oct 31 1681 1684	Original Article
30	Tsujimoto,T.,Sugiyama,T.,Noda,M.他	糖尿病病内分泌代謝科	Intensive Glycemic Therapy in Patients With Type 2 Diabetes on beta-Blockers	Diabetes care 2016 Oct 39 1818 1826	Original Article
31	Kameyama,M.,Umeda-Kameyama,Y.	放射線核医学科	Strategy based on kinetics of O-(2-[18F] fluoroethyl)-L-tyrosine ([18F] FET)	European journal of nuclear medicine and molecular imaging 2016 Nov 43 2267 2268	Letter
32	Okuma,Y.,Suda,K.,Nakaoka,H.他	小児科	Serum Tenascin-C as a Novel Predictor for Risk of Coronary Artery Lesion and Resistance to Intravenous Immunoglobulin in Kawasaki Disease- A	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society 2016 Oct 80 2376 2381	Original Article
33	Hayashida,T.,Hachiya,A.,Ode,H.他	エイズ治療・研究開発センター	Rilpivirine resistance mutation E138K in HIV-1 reverse transcriptase predisposed by prevalent polymorphic mutations	The Journal of antimicrobial chemotherapy 2016 Oct 71 2760 2766	Original Article
34	Aoki,T.,Nagata,N.,Shimbo,T.他	消化器内科	Development and Validation of a Risk Scoring System for Severe Acute Lower Gastrointestinal Bleeding	Clinical gastroenterology and hepatology : the official clinical practice journal of the American 2016 Nov 14 1562 1570	Original Article
35	Tajima,T.,Wada,T.,Yoshizawa,A.他	放射線診断科	Internal anomalies in thalidomide embryopathy: results of imaging screening by CT and MRI	Clinical radiology 2016 Nov 71 1199 1199	Original Article
36	Hirano,S.,Naka,G.,Takeda,Y.他	呼吸器内科	A prospective, multicenter phase II trial of low-dose erlotinib as maintenance treatment after platinum doublet chemotherapy for advanced non-small cell	Chinese clinical oncology 2016 Dec 5 77	Original Article
37	Gohda,Y.,Noguchi,R.,Horie,T.他	外科	Pseudomyxoma peritonei of a mature ovarian teratoma caused by mismatch repair deficiency in a patient with Lynch syndrome: a case report	BMC medical genetics 2016 Dec 17 94	Original Article
38	Minamimoto,R.	放射線核医学科	Response to "Commentary to "Evaluation of a new motion correction algorithm in PET/CT: combining the entire acquired PET data to create a single	Nuclear medicine communications 2016 Aug 37 888	Original Article

39	Toyonaga,Y.;Kikura,M.	麻酔科	Hyperchloremic acidosis is associated with acute kidney injury after abdominal surgery	Nephrology (Carlton, Vic.)	2016 Jun	22	720	727	Original Article
40	Yamamoto,K.;Hayakawa,K.;Nagatsu M.他	国際感染症センター	Bacteremia due to <i>Arthrobacter creatinolyticus</i> in an elderly diabetic man with acute cholangitis	Japanese journal of infectious diseases	2017 Mar	70	201	202	Original Article
41	Kutsuna,S.;Kato,Y.;Nakayama,E.他	国際感染症センター	A case of consecutive infection with Zika virus and Chikungunya virus in Bora Bora, French Polynesia	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of	2017 Feb	23	114	116	Original Article
42	Hayakawa,K.;Nagatsu M.;Mezaki,K.他	国際感染症センター	Epidemiology of extended-spectrum beta-lactamase (ESBL) producing <i>Escherichia coli</i> in Japan: Characteristics of community-associated versus	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of	2017 Feb	23	117	119	Original Article
43	Katanami,Y.;Kutsuna,S.;Horino,A.他	国際感染症センター	A fatal case of melioidosis with pancytopenia in a traveler from Indonesia	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of	2017 Mar	23	241	244	Original Article
44	Ainoda,Y.;Takeshita,N.;Hase,R.他	国際感染症センター	Multicenter study of the clinical presentation of <i>Staphylococcus lugdunensis</i> bacteremia in Japan	Japanese journal of infectious diseases	2016 Dec	70	405	407	Original Article
45	Fujiya,Y.;Nagatsu M.;Tomida,J.他	国際感染症センター	Successful treatment of recurrent <i>Helicobacter femelliae</i> bacteraemia by selective digestive decontamination with kanamycin in a lung cancer	JMM case reports	2016 Oct	3	(オンライン)		Original Article
46	Tanuma,J.;Jiamsakul,A.;Makane,A.他	エイズ治療・研究開発センター	Renal Dysfunction during Tenofovir Use in a Regional Cohort of HIV-Infected Individuals in the Asia-Pacific	PloS one	2016 Aug	11	(オンライン)		Original Article
47	Ishikane,M.;Hayakawa,K.;Kutsuna,S.他	国際感染症センター	Epidemiology of Blood Stream Infection due to <i>Candida</i> Species in a Tertiary Care Hospital in Japan over 12 Years: Importance of Peripheral Line--	PloS one	2016 Oct	11	(オンライン)		Original Article
48	Nishijima,T.;Teruya,K.;Shibata,S.他	エイズ治療・研究開発センター	Incidence and Risk Factors for Incident Syphilis among HIV-1-Infected Men Who Have Sex with Men in a Large Urban HIV Clinic in Tokyo, 2008-2015	PloS one	2016 Dec	11	(オンライン)		Original Article
49	Tsujimoto,T.;Sugiyama,T.;Yamamoto-Honda,R.他	糖尿病内分泌代謝科	Beneficial effects through aggressive coronary screening for type 2 diabetes patients with advanced vascular complications	Medicine	2016 Aug	95	(オンライン)		Original Article
50	Tsujimoto,T.;Kajio,H.;Sugiyama,T.	糖尿病内分泌代謝科	Obesity, diabetes, and length of time in the United States: Analysis of National Health and Nutrition Examination Survey 1999 to 2012	Medicine	2016 Aug	95	(オンライン)		Original Article
51	Higashizono,K.;Yano,H.;Miyake,O.他	外科	Postoperative pneumatosis intestinalis (PI) and portal venous gas (PVG) may indicate bowel necrosis: a 52-case study	BMC surgery	2016 Jul	16	42		Original Article
52	Matono,T.;Hayakawa,K.;Hirai,R.他	国際感染症センター	Emergence of a daptomycin-non-susceptible <i>Enterococcus faecium</i> strain that encodes mutations in DNA repair genes after high-dose	BMC research notes	2016 Apr	9	197		Case report
53	Matono,T.;Kato,Y.;Yotsu,R.他	国際感染症センター	Tungiasis: diagnosis at a glance	Lancet (London, England)	2016 Jul	388	275		Case report
54	Hayakawa,K.;Mezaki,K.;Sugiki,Y.他	国際感染症センター	High rate of multidrug-resistant organism colonization among patients hospitalized overseas highlights the need for preemptive infection control	American Journal of Infection Control	2016 Nov	44	(オンライン)		Original Article
55	Kimura,A.;Kobayashi,K.;Yamaguchi,H.他	救命救急センター	New clinical decision rule to exclude subarachnoid haemorrhage for acute headache: a prospective multicentre observational study	BMJ open	2016 Sep	6	(オンライン)		Original Article
56	Hagiwara,A.;Tanaka,N.;Uemura,T.他	救命救急センター	Can recombinant human thrombomodulin increase survival among patients with severe septic-induced disseminated intravascular coagulation: a single-	BMJ open	2016 Dec	6	(オンライン)		Original Article
57	Shimoda,M.;Matsumoto,S.	外科	Microencapsulation in Clinical Islet Xenotransplantation	Methods in molecular biology (Clifton, N.J.)	2017	1479	335	345	Original Article
58	Shimoda,M.;Matsumoto,S.	外科	Methods for Microencapsulated Porcine Islet Production	Methods in molecular biology (Clifton, N.J.)	2017	1479	347	356	Original Article
59	Tsujimoto,T.;Sugiyama,T.;Kajio,H.	糖尿病内分泌代謝科	Effects of beta-blockers on all-cause mortality in patients with type 2 diabetes and coronary heart disease	Diabetes, obesity & metabolism	2016 Jun	19	800	808	Original Article
60	Ihara-Sugiyama,N.;Yamamoto-Honda,R.;Sugiyama,T.他	糖尿病内分泌代謝科	Cross-Over Study Comparing Postprandial Glycemic Increase After Addition of a Fixed-Dose Mitiglinide/Voglibose Combination or a Dipeptidyl	Medical science monitor basic research	2017 Feb	23	36	44	Original Article
61	Hasegawa,S.;Shibata,M.;Mochizuki,M.他	腎臓内科	Non-uniform Progression of Chronic Tubulointerstitial Nephritis and Widespread Nephrocalcinification in a Patient with Anorexia	Internal medicine (Tokyo, Japan)	2017 Mar	56	545	549	Original Article
62	Kinai,E.;Gatanaga,H.;Mizushima,D.他	エイズ治療・研究開発センター	Protease inhibitor-associated bone mineral density loss is related to hypothyroidism and related bone turnover acceleration	Journal of infection and chemotherapy : official journal of the Japan Society of	2017 Mar	23	259	264	Original Article
63	Suzuki,S.;Nishijima,T.;Kawasaki,Y.他	エイズ治療・研究開発センター	Effect of Tenofovir Disoproxil Fumarate on Incidence of Chronic Kidney Disease and Rate of Estimated Glomerular Filtration Rate Decrease in	AIDS Patient Care and STDs	2017 Mar	31	105	112	Original Article
64	Takano,J.;Ohikata,K.;Nagase,D.他	血液内科	Large Plasmacytoma Occupying the Upper Limb in a Myeloma Patient	Rare tumors	2017 Mar	9	5866		Original Article
65	Tsujimoto,T.	糖尿病内分泌代謝科	Reply to the letter: "Sweet taste disorder and vascular complications in patients with abnormal glucose tolerance"	International journal of cardiology	2017 Feb	229	37		Letter
66	Hirano,M.;Wada-Hiraike,O.;Fu,H.他	産婦人科	The Emerging Role of FOXL2 in Regulating the Transcriptional Activation Function of Estrogen Receptor beta: An Insight Into Ovarian	Reproductive sciences (Thousand Oaks, Calif.)	2017 Jan	24	133	141	Original Article
67	Ro S1, Ishii S, Hayashi Y他	呼吸器内科	Thoracoscopy under Local Anesthesia was Useful for Diagnosing Yellow Nail Syndrome.	Internal medicine	2016	55	975	980	Case report
68	Saito N, Suzuki M, Ishii S 他	呼吸器内科	Asthmatic Attack Complicated with Takotsubo Cardiomyopathy after Frequent Inhalation of Inhaled Corticosteroids/Long-Acting Beta2-Adrenoceptor	Internal medicine	2016	55	1615	1620	Case report
69	Tsuboi, M., Nishijima, T., Teruya,他	エイズ治療・研究開発センター	Cerebral Syphilitic Gumma within 5 months of Syphilis in HIV-infected Patient.	Emerging Infectious Diseases	2016 Oct	22	1846	1848	Letter
70	Umemoto K, Kojima Y, Nagata N.他	消化器内科	Cytomegalovirus esophagitis developing during chemoradiotherapy for esophageal cancer: two case reports.	Journal of Medical Case Reports	2016 Sep	10	(オンライン)		Case report
71	Ueki K, Sasako T, Kato M他	糖尿病内分泌代謝科	Design of and rationale for the Japan Diabetes Optimal Integrated Treatment study for 3 major risk factors of cardiovascular diseases (J-DOIT3):	BMJ Open Diabetes Res Care	2016 Sep	4	(オンライン)		Original Article
72	Tsuzuki S, Hosokawa S, Matsushita T	小児科	Two Siblings with Abnormal Findings of Head MRI Born to an HIV-positive Woman.	Jpn J Infect Dis	2017 Feb	70	352	353	Case report
73	Nozaki K, Kamijo Y, Nakatsuka M他	泌尿器科	Computed tomography for the management of exit-site and tunnel infections in peritoneal dialysis patients.	Clinical Nephrology	2016 Dec	86	328	332	Original Article
74	Yasuyuki Shimada,Yutaka Maruoka, Iena Yamaji他	歯科・口腔外科	Non-syndromic familial keratocystic odontogenic tumour: a rare case report in Japanese identical twins.	Journal of Clinical and Diagnostic Research	2016 Aug	10	(オンライン)		Case report

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
 記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	原著者の特定機能病院における所	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 ○倫理委員会規程 目的・倫理委員会の設置・倫理委員会の審査理念・倫理委員会の構成・倫理小委員会・医学研究に係る審査の申請等・医療行為に係る申請等・他の臨床研究機関からの審査依頼・他の臨床研究機関の長からの審査依頼文書の提出・他の臨床研究機関との契約・審査受託の通知・他の臨床研究機関の長による審査の申請等・倫理委員会の開催・倫理委員会の審査・迅速審査・研究継続審査・重篤な有害事象への対応・倫理委員会の判定・理事長または他の臨床研究機関の長への通知 ・申請者への通知・倫理委員会の審査記録・守秘義務・臨床研究認定証・倫理委員の資質向上・調査等への協力・事務局 等 ○臨床研究に係る標準業務手順書 目的と適用範囲・研究者の要件・研究計画の申請と承認・臨床研究の実施・調査等への協力・重篤な有害事象の報告・研究の中止、中断ならびに終了・倫理委員会の運営手順・倫理指針等の遵守・記録の保存 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年18回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
---------------------------------------	---

② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
<p>・ 規定の主な内容</p> <p>利益相反マネジメント規程：趣旨・用語の定義・利益相反マネジメントの対象・職員等の責務・各部局における対応・利益相反マネジメント委員会と、その所掌事項・調査結果に基づく処置・異議申立て 等</p>	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年18回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年18回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>施設内外の講師により講習会を18回開催し、講習の内容をビデオ録画しe-learningとして職員が随時受講できる体制を整えている。講習の内容は「臨床研究の活性化を目指して」「新たな倫理審査申請書の記入方法、臨床研究の実施において求められる各種報告」「世界が求める、日本の感染症の医療イノベーション」「NCGMにおける臨床研究のあり方について」「シリコンバレー流医療機器における人財育成」「日本におけるレセプト情報等を活用した臨床疫学研究」などの演題で行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の高度の医療に関する研修（専門研修）では、救命救急センターの救急科および総合診療科における未診断症例、各専門診療科における稀少症例を含む豊富な入院症例を教育資源として、各学会の専門医及び指導医資格を有する熱心なスタッフの指導の下、専攻医は各専門分野の臨床能力を高め、基本領域のみならずサブスペシャリティー領域の専門医資格を取得することが可能である。さらに、症例集積的研究をバックアップする臨床研究センター、高水準の感染症臨床を誇るエイズ治療・研究開発センターおよび国際感染症センター、日本の国際保健医療のメッカである国際医療協力局、付設の研究所における基礎研究等、特徴ある教育資源を生かし、当院ならでの特色ある専門研修プログラムを提供している。また、専門研修期間中には当院と連携する臨床系大学院に入学して研究を行い、学位を取得することも可能である。

2 研修の実績

研修医の人数	166人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
柳瀬 幹雄	消化器内科	消化器内科（消化管担当） 診療科長	26年	
秋山 純一	消化器内科	消化器内科（肝臓等担当） 診療科長	24年	
廣井 透雄	循環器内科	循環器内科診療科長	28年	
杉山 温人	呼吸器内科	呼吸器内科診療科長	36年	
梶尾 裕	糖尿病内分泌代謝科	糖尿病内分泌代謝科診療科長	32年	
日ノ下 文彦	腎臓内科	腎臓内科診療科長	36年	
金子 礼志	膠原病科	膠原病科診療科長	28年	
中村 文彦	血液内科	血液内科診療科長	20年	
竹内 壯介	神経内科	神経内科診療科長	25年	
大曲 貴夫	感染症内科 (DCC)	国際感染症センター長 (DCC 科長)	20年	
岡 慎一	感染症内科 (ACC)	エイズ治療・研究開発センター長	35年	
七野 浩之	小児科	小児科診療科長	28年	

玉木 毅	皮膚科	皮膚科診療科長	30年	
今井 公文	精神科	精神科診療科長	26年	
田嶋 強	放射線科	放射線診断科診療科長	27年	
木村 昭夫	救急科	救命救急センター長	33年	
國松 淳和	総合診療科	医師	14年	
藤谷 順子	リハビリテーション科	リハビリテーション科診療科長	30年	
猪狩 亨	病理診断科	病理診断科診療科長	33年	
矢野 秀朗	外科	外科診療科長	27年	
宝来 哲也	心臓血管外科	心臓血管診療科長	19年	
喜納 五月	呼吸器外科	呼吸器外科診療科長	24年	
原 徹男	脳神経外科	脳神経外科診療科長	34年	
桂川 陽三	整形外科	整形外科診療科長	30年	
久米 春喜	泌尿器科	泌尿器科診療科長	28年	
八代 成子	眼科	眼科診療科長	28年	
矢野 哲	産婦人科	産婦人科診療科長	37年	
前原 康宏	麻酔科	麻酔科診療科長	33年	
田山 二郎	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科診療科長	34年	
山本 匠	形成外科	形成外科診療科長	10年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	院長 大西 真
管理担当者氏名	須貝 和則、堀之内 勝志、六ツ見 しのぶ、杵木 優子、深谷 隆史、栗原 健揮

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課 医事室 電子カルテ	年度ごとに文書保存 診療録 電子媒体 持ち出しは原則禁止
		各科診療日誌	総務課	
		処方せん	財務経理課	
		手術記録	医療教育室	
		看護記録	医療教育室	
		検査所見記録	総務課	
		エックス線写真	医事室	
		紹介状	薬剤部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	文書保存 電子媒体
		高度の医療の提供の実績	財務経理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療教育室	
		高度の医療の研修の実績	医療教育室	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
	規則第一條の第十一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	文書保存
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	院内感染管理室
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染管理室
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染管理室
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染管理室
	に掲げる事項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	手術部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療教育部門
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療教育部門		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	堀之内 勝志		
閲覧担当者氏名	堀之内 勝志		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
国立研究開発法人国立国際医療研究センター情報公開手続規程第 5 条（開示請求の手続）第 1 項に基づき、様式 1 法人文書開示請求書をセンターに提出することにより、開示（閲覧）請求を行う。			

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容 当院の医療事故防止について組織的に検討し、患者の立場に立ち、患者が安心して医療を受けられる環境を整えるための基本姿勢を示している。医療に係る安全管理のための基本的な考え方安全管理のための組織及び委員会などに係る基本的事項医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本的事項医療機関内における事故報告等の医療に係る安全管理を目的とした改善のための方策に関する基本方針医療事故等発生時の対応に関する基本方針医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本事項患者からの相談への対応に関する基本方針その他医療安全の推進のために必要な基本方針について	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">設置の有無 (有・無) リスクマネジメント委員会開催状況：年 12 回活動の主な内容病院長の管轄下にリスクマネジメント委員会を置いている。 月2回実施しているリスク分析委員会にて、具体的な調査・分析を実施し、毎月のリスクマネジメント委員会にて結果を報告し助言を受けている。他にも各委員会で検討し、決定した改善方法を医療安全管理室が中心となり実施し、会議・メールなどで発信周知する方法をとっている。それらについてもリスクマネジメント委員会で報告し、助言を受けている。患者影響レベル3b~5については委員会内で報告の上、理事長にも遅滞なく報告している。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：e-ラーニングを用いた研修を実施している。インシデントレポート 対象者1700人 100%実施復唱確認 対象者1667人 100%実施	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容ヘパリン濃度組成統一、ヘパリン化の適応、検査値の目安について提示病棟薬剤師によるチェック体制の確立 (組成、流量、検査データ)インスリンのオーダーを容積ではなく、単位で統一	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 国立国際医療研究センターにおける院内感染防止の目的2. 感染対策の基本的考え方3. 感染対策防止対策委員会及び院内感染対策に係る組織に関する基本事項4. 感染対策のために職員に対して行われる研修に関する基本方針5. 感染症発生状況の報告に関する基本方針6. 感染症発生時の対応に関する基本事項7. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する方針8. 感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	1年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 微生物室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析2. 薬剤部からの抗菌薬使用状況報告による耐性菌検出状況の分析3. ICTから血液培養、耐性菌院内発生状況、感染対策遵守状況の報告により、院内動向の分析4. 結核の発生動向の把握、および感染防止対策上の対応5. ICTで検討した課題、提案事項などを審議、決定する6. マニュアル、規約等の最終決議	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	1年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・平成28年前期：海外渡航関連感染症（e-ラーニング）参加人数1700名 100%・平成28年後期：感染対策の基本（e-ラーニング）参加人数1667名 100%・平成29年前期：抗菌薬の適正使用（e-ラーニング）参加人数1723名 100%	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 週1回のICTラウンド(火曜日)、感染管理室ラウンド(金曜日)による感染対策の実施状況の確認 環境のチェック、指導、フォローアップ2. 細菌検査室と協力し耐性菌等の発生状況を毎日確認、検出時は病棟へ連絡し対策を指導する3. 診療科別、病棟別の耐性菌検出状況を1回/月集計、提示し、必要時介入を行う4. 抗菌薬使用届出制度および許可制度を運用し、状況の確認、必要時介入を行う5. 抗菌薬適正使用推進のための感染症科コンサルテーション、血液培養陽性患者のラウンドと 広域抗菌薬長期使用患者への介入6. 職員の手指衛生遵守状況サーベイランスの実施<ul style="list-style-type: none">・感染リンクナース、感染リンクドクター、各部門の感染担当者によるチェック・ICTによる直接観察7. カメラ監視による個人防護具の遵守状況チェック実施8. マニュアルの見直し・改訂	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">・ 正しい処方せん の 書き方 (研修医)・ 薬剤の取り扱いについて (看護師)・ 静脈注射研修 (看護師)・ ヘパリンについて (看護師)・ 医薬品安全管理研修-医薬品副作用被害救済制度について (職員)・ 麻薬 (医療用) の取り扱いについて (医師用)・ 麻薬 (医療用) の取り扱いについて (看護師用)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 (有 無)・ 業務の主な内容<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に関する研修の実施・ 医薬品の安全使用のための業務手順書の改訂・ 入院患者への未承認医薬品等の使用に関する情報収集を追加・ 未承認医薬品の使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し医薬品安全管理責任者へ報告を追加・ 医薬品業務手順書チェックリストの改訂・ 麻薬の出納の確認を追加・ 病棟等巡視状況報告書による定数等の確認など	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)・ その他の改善のための方策の主な内容<ul style="list-style-type: none">・ 平成29年1月1日より、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合には診療科長が申請を行い、同委員会において審議し、審議結果を院長及び理事長に報告し、承認されたものだけが使用できるようになっている。・ 医薬品情報管理室において、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報 (禁忌等)、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告。医薬品安全管理責任者は医薬品安全管理委員会へ報告を行っている。・ PMDA、製薬企業等からの添付文書改訂情報、緊急安全性情報等は医薬品情報管理室で管理され、院内にオールメール、薬剤部ホームページへの掲載、医療安全ニュースへ掲載し全職員への周知を図っている。・ ソバルディ錠400mgとハーボニー配合錠の包装変更のお知らせ・ オブジーボ点滴静注、及びキイトルーダ点滴静注の保険適応上の留意事項について・ 得られた副作用情報により、医薬品情報管理室で患者への使用状況、副作用の発生などを確認し、医薬品安全管理委員会に報告している。・ C型肝炎直接型抗ウイルス薬の「使用上の注意」の改訂について・ 医薬品添加物に関して・ 添付文書上に血管外漏出の注意喚起記載がある医薬品について・ 病棟薬剤師の業務として、カルテ確認、患者ベッドサイドでの確認を通して、医薬品の適正使用、安全使用、副作用確認等に努めている。・ 病棟薬剤師によるヘパリン使用状況確認 (組成、流量、検査)。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容 ・e-ラーニングを用いた人工呼吸器 (TPPV・NPPV・HFT)、除細動器の取扱い研修 (医療ガス電源設備を含む) の実施。 ・集中治療室で使用する生命維持管理装置 (高性能人工呼吸器、補助循環装置・血液浄化装置) の使用予定者に対する取扱い研修。 ・新生児集中治療室で使用する新生児用生命維持管理装置 (人工呼吸器、閉鎖式保育器) の使用予定者に対する取扱い研修。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	(有)・無
・医療機器に係る計画の策定 (有)・無) ・保守点検の主な内容 ・医療法で定める生命維持管理装置及び放射線関連装置における計画の策定と点検の実施。 ・毎月開催される委員会での医療機器安全管理責任者と委員による確認と承認。 ・輸液ポンプ及びシリンジポンプなどの添付文書における保守点検と精度管理。 ・手術室内における麻酔器及び電気メスの計画の策定と点検の実施。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	(有)・無
・医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・その他の改善のための方策の主な内容 ・日本医療評価機構及びPMDAによる医療安全情報の入手 (HP閲覧、定期メール配信への登録)。 ・PMDA及び関連団体、販売メーカーによる自主回収情報の入手。 ・医療機器に関連する情報の委員会と医療機器安全管理責任者への報告と方策の検討。 ・医療機器安全管理責任者からの病院長等、病院幹部職員への報告。 ・医療機器安全管理者から関連する診療科及び各病棟へのお知らせ。 ・自主回収及びリコールについては、医療機器管理室での一括管理。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 責任者の資格（医師・歯科医師） 平成28年4月1日 配置 医療安全担当副院長 廣井 透雄・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況<ul style="list-style-type: none">・ 院内発生アクシデント、インシデント、有害事象を把握し医療安全管理室と共有している。・ 医薬品の疑義紹介を全例チェックしている。・ 院外の医療安全に関する情報の収集を行っている。・ 医療安全に係る各会議、委員会に出席し、必要な報告や職員への周知を行っている。・ 医療安全に係る研修の実施、職員教育を行っている。・ 他の特定機能病院との立ち入り検査の企画、運営、報告を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（2名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る院内発生アクシデント、インシデント、有害事象を把握し薬剤部と共有している。・ 院外の医薬品安全に関する情報収集を行っている。・ 医薬品の疑義照会を全例チェックしている。・ 病棟薬剤師の業務記録をチェックしている。 <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品情報管理室において、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえて添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告。医薬品安全管理責任者は医薬品安全管理委員会へ報告を行っている。・ PMDA、製薬企業等からの添付文書改訂情報、緊急安全性情報等は医薬品情報管理室で管理され、院内にオールメール、薬剤部ホームページへの掲載、医療安全ニュースへ掲載し全職員への周知を図っている。・ ソバルディ錠400mgとハーボニー配合錠の包装変更のお知らせ。・ オブジーボ点滴静注、及びキイトルーダ点滴静注の保険適応上の留意事項について。・ 得られた副作用情報により、医薬品情報管理室で患者への使用状況、副作用の発生などを確認し、医薬品安全管理委員会に報告している。・ C型肝炎直接型抗ウイルス薬の「使用上の注意」の改訂について。・ 医薬品添加物に関して。・ 添付文書上に血管外漏出の注意喚起記載がある医薬品について。 <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・ 平成29年1月1日より、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合にあっては診療科長が申請を行い、同委員会において審議し、審議結果を院長及び理事長に報告し、承認されたものだけが使用できていることになっている。<ul style="list-style-type: none">・ 平成29年1月～3月に委員会を3回開催・ 平成29年4月～7月に委員会を3回開催 <p>・ 担当者の指名の有無（有）</p> <p>・ 担当者の所属・職種</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 医薬品情報管理室長）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無

<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・当院のICに関する指針が遵守されているか、質的・量的監査を実施 ・指針の遵守に当たって必要な指導、及び教育と研修(会議、委員会等で具体的事例を提示し、説明している) 	
<p>⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報及び診療記録の点検及び疑義があった場合に報告を受ける。 ・診療情報及び診療記録の質的・量的監査の実施。 ・診療情報などの提供、管理、作成など診療情報管理室の業務を統括している。 	
<p>⑥ 医療安全管理部門の設置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従(4)名、専任()名、兼任(3)名 うち医師：専従(1)名、専任()名、兼任(3)名 うち薬剤師：専従(1)名、専任()名、兼任()名 うち看護師：専従(2)名、専任()名、兼任()名 他臨床工学技士長1名、非常勤事務員1名 (注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療に係る安全管理のための委員会、医薬品及び医療機器安全管理責任者を統括している。 ・インシデント、アクシデント事例の収集、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックを実施している。 ・インシデントレポート提出推進。 ・全死亡事例の把握。 ・医療安全に係る規程の改訂、マニュアルの見直し。 ・医療安全管理室より発信した情報や改善内容、医療安全マニュアルの遵守状況について、定着度を日々の院内ラウンドや抜き打ちチェックにおいて確認している。 ・医療安全に係る各種会議、委員会での報告、情報発信。 ・医療安全のための教育研修の企画と運営、リスクマネージャー、ジュニアリスクマネージャーへの教育と指導。 	

- ・ リスクマネージャー、ジュニアリスクマネージャーによる院内パトロールの企画と運営。
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の運営。
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の運営。
- ・ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置し、当院のICに関する指針の遵守状況、指針の遵守に当たって必要な教育、研修を行っている。
- ・ 診療録等の管理に関する責任者を配置し、診療情報管理室と連携し、質的量的監査の点検及び疑義があった場合に報告を受けている。
- ・ 特定機能病院との立ち入り検査の企画と運営。
- ・ 医療安全監査委員会の企画と運営。
- ・ 日本医療評価機構医療事故情報収集等事業への参加。
- ・ 医療事故発生時の対応。
- ・ 患者相談窓口、危険予知投稿との連携（医療連携室ミーティングへの参加及び報告）。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容
 - ・ 委員会は高難度新規医療技術を安全に導入することを目的とする。
 - ・ 申請案件の倫理的・科学的妥当性、実現性について提供の適否、実施を認める場合の条件などについて、当該診療科に意見を求める。
 - ・ 検討結果、適応に当たってのプロセス、進捗状況、症例数、実施報告を監視する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 未承認新規医薬品等を安全に使用することを目的とする。
 - ・ 申請案件の倫理的・科学的妥当性、及び適切な使用方法、有効性及び安全性の検証など未承認新規

医薬品等の適否を検討し、定められた期間その進捗を監視する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・ 無

- ・ 監査委員会の開催状況：年 2 回
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院としての医療安全の確保を図るために外部監査を行う。
 - ・ 必要と認める者から医療安全に関する報告を受け、必要に応じ確認し、是正措置を講ずるよう意見表明する。
 - ・ 医療法改正に伴い、適時に組織の改正、規程の改正が行われているかを確認する。
 - ・ 取り組みに関してのモニタリングを確認する。
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 委員名簿の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法：病院ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
長田 理	公益財団法人がん研究会がん研有明病院院長補佐	○	がん研有明病院の麻酔科で豊富な診療経験を持ち、併せて院長補佐として病院経営・管理に関して十分な経験と実績を持つのみならず、医療安全管理部部長として医療安全の豊富な知識と長年にわたる経験を持つことから適任とした。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
細川 大輔	細川大輔法律事務所弁護士		弁護士として多くの医療事故に関わっており、豊富な経験に基づく十分な実績がある。併せて医療問題弁護団の研修責任者を	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1

			務めた経験から医療過誤事件の処理に必要な専門知識が豊富なことから適任とした		
出口 桂太郎	(株)ユーラシア旅行社 取締役管理部長		ユーラシア旅行社で取締役管理部長として企業経営・管理に関して十分な知識を持つのみならず、併せて公認会計士として幅広い見識を持ち多大な人望を得ていることから適任とした	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
難波 吉雄	国立国際医療研究センター 企画戦略局長			<input checked="" type="radio"/> 有・無	3
小須田 幸夫	国立国際医療研究センター 統括事務部長			<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 459 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 0 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理室にて、院内における死亡全症例について、カルテチェックを行っている。 ・また診療情報管理室とも連携しており、内容に疑義があった場合に報告を受けている。必要があれば事例検討会、外部委員を入れた事故調査委員会を実施し、リスクマネジメント委員会で報告し、必要時、医療事故・調査支援センターへ報告している。
⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り (<input checked="" type="radio"/> (病院名：公益財団法人がん研究会 がん研有明病院、静岡県立静岡がんセンター) ・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (<input checked="" type="radio"/> (病院名：公益財団法人がん研究会 がん研有明病院、静岡県立静岡がんセンター) ・無) ・技術的助言の実施状況 医療機器の時刻合わせ、配置薬棚の施錠、内視鏡回復室に呼吸モニターを設置。
⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <ul style="list-style-type: none"> ・患者相談窓口（外来運営・相談支援室）の設置。 <p>平日 8：30～16：30 相談に応じている。相談に係る解決への処理は可能な限り匿名性を原則とし、相談内容の情報に係る守秘義務を徹底している。</p>
⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・無) ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> ・無) ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・無)
⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

e-ラーニングを用いた研修を実施。

インシデントレポート 1700名
復唱確認 1667名

・中途採用者研修

・新採用者対象研修 医師 94 名、研修医 35 名、看護師 121 名、

・医薬品の安全使用のための研修

- ・正しい処方せんの書き方（研修医）35 名
- ・薬剤の取り扱いについて（看護師）103名
- ・静脈注射研修（看護師）107名
- ・ヘパリンについて（看護師）766名
- ・医薬品安全管理研修（医薬品副作用被害救済制度）38名
- ・麻薬（医療用）の取り扱いについて（医師用）354名
- ・麻薬（医療用）の取り扱いについて（看護師用）824名

・医療機器の安全使用のための研修（医療機器取扱研修 平成 28 年 6 月 834 名、平成 28 年 12 月 791 名）

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：平成 30 年度 受講予定

医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者：平成 29 年 4 月～9 月 明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム（名古屋大学 ASUISHI）

医薬品安全管理責任者：平成 25 年度 医療安全対策研修（独立行政法人国立病院機構関東信越ブロック事務所主催）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第8)

国際研セン発 291003004 号
平成 29 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
國土 典宏(印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

病院長：平成 30 年 2 月開催の「平成 29 年度特定機能病院管理者研修（公益財団法人日本医療機能評価機構）」を受講予定。

その他については受講済。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（4）名
うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

他、臨床工学技士長 1 名（兼任）事務職 1 名（専任）

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

配置済み